

1例会 個人		山行報告書		報告者	竹内	参加 メンバー	CL: 藤田 塚本 金子 福井 竹内
山域		北八甲田連峰*		報告日	11/08		
山名		八甲田山		山行日		06年 10月 12日(木) ~ 年 月 日()	
山行目的		東北の山を登る		コースタイム(天候: 天気図記号)			

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会
担当者

ルート図(地図を見て正確に)		コースタイム(天候: 天気図記号)	
		八甲田山 10/12 晴れのち曇り 8:56 酸ヶ湯温泉 10:25 仙人岱 11:05 大岳(頂上) 12:30 毛無岱湿原 13:27 酸ヶ湯温泉	
2.5万分の1地図: 酸ヶ湯、八甲田山			

山行報告 焼山温泉を8時に出発、酸ヶ湯温泉までは30分ほどで到着するが途中、紅葉を眺めながら睡蓮沼にも立ち寄って八甲田山麓に到着する。平日だが紅葉の時期で観光客と登山者でにぎわっている。鳥居をくぐり林の中を進んでいく。緩やかな登山道を登っていくと、やがて岩肌が見えてきて硫黄の臭いが強くなる。地獄湯ノ沢である。さらに進むと平坦なところに出た。仙人岱湿原である。ガスの中に入っていて周りの景色が見えないのが残念である。湿原の中に清水が湧き出している。飲んでみたが「実においしい」。このすぐ先に分岐がでてきた。さらに進むと樹林帯に入りそこを抜けると森林限界である。そして急な登りとなり登りきったところが頂上の大岳である。ガスの中で展望は望めなかった。早々と下山を開始する。大岳鞍部の避難小屋を過ぎ樹林の中をしばらく進むと木道にのり湿原に入る。そして長い木造の急な階段を下りる。ここから見る毛無岱湿原は絶景である。階段を下りたところにある展望台で紅葉を眺めながら休憩をする。ここから湿原全体を見ると黄金色に見える。まさにこの時期だけの風景である。そして、木道を歩いて長い湿原を縦断して下山、樹林の中を抜けて酸ヶ湯温泉の前に下りた。

この後、酸ヶ湯温泉に入って汗を流しさっぱりした気分で、明日登る岩木山の麓に車で移動した。途中、弘前に立ち寄って、夕食を食べ行動食も調達した。八甲田の頂上はガスで展望が見えなかったのは残念でしたが、毛無岱湿原では絶景を見ることができ、秋の東北の山を大いに楽しむことができました。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



毛無岱湿原

確認
(リーダー)
藤田
06/11/01
作成
(報告者)
竹内
06/10/30

リーダー所見
新田次郎著「八甲田山死の彷徨」は山岳部に入部して最初に呼んだ山岳小説である。入山前に読み返してみると青森5連隊神田大尉と弘前31連隊徳島大尉のリーダーとして時代を背景にした苦悩の姿が痛々しい。平和な時代に登山を楽しむ幸せに多謝。